

# 9月豊橋市議会傍聴記

地方政治  
クリエイティブ

## 伊藤 秀昭

### ■ホストタウン

いよいよ4年後に迫った東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取り組みについて取り上げたのは宮沢佐知子氏(公明)。

ホストタウンとしてのドイツ、リトアニアの登録までの経緯と登録後の取り組み、そしてスポーツ振興や学校教育における位置づけなどについて聞いたが、ホストタウンの趣旨でもある豊橋の活性化、観光振興等の視点から、豊橋は、そして市民は何をすべ

きかの議論を深めてほしかった。

### ■イトーヨーカドー

豊橋店の閉店 芳賀裕幸氏(まっぴーオーラム)はイトーヨーカドー豊橋店の閉店を問題にした。

産業部長は同店が豊橋市に与える影響について、特に物販や雇用への影響は避けられず、隣接するホテルの外国人観光客に対する利便性の面で影響など地域経済に与える影響を懸念しているとした。イトーヨーカドー豊橋店閉店のニュースとは対照的に、豊

川市のスキ工場跡地にイオンモール進出のニュースがある。規模からいえばイオン岡崎やイオン志都呂よりも大きい。

23号バイパスが軸となり、東三河の人の流れが大きく変わる可能性が出てき

# 東三河の人の流れが変わる

た。豊橋にこの危機感があるのだろうか。

### ■新たな学校教育

川原元則氏(無所属)は次期学習指導要綱の改定に伴い、プログラミング教育の小学校への導入と中学校での拡充、アクティブラーニング

の導入などについて取り上げた。

教育長は「新しい教育で培われる資質・能力は、これからの時代を生きる子どもにとつて必要なものであり、各学校で確実に展開されなければならぬ」との認識を示した。

新しい時代の流れは子どもたちの教育現場に確実に流れ込んでいる。

### ■少子高齢社会の

下水道事業 深山周三氏(まっぴーオーラム)は「都市計画税を払い続けているのに下水道事業は未着手で、その

上、個別浄化槽があるのに、別途に接続費が必要なのはなぜか」という市民の声から、市街化区域での下水道未着手地区

(東三ノ輪、岩西、三郷)での早期着手を要請した。

集合処理施設での下水道事業は膨大な

経済的理由で浄化槽の適正管理ができない傾向にあることも指摘して、下水道事業の憂慮すべき実態を示した。

傾聴に値する問題提起だった。

豊橋市の総合力で観光振興に挑み未来

時間と費用が掛かり、更に維持修繕費が上乗せされ、これに耐震老朽化対策も必要となってきた。その上、人口減少などで使用料収入の減少も予想されている。

### ■観光振興

また、核家族化や独居老人が増加し、

取り組みをしているが、東三河を周遊する訪日外国人観光客は少なく、更なる環境整備が必要」と答えた。

伊藤氏は潜在的な地域資源を磨き上げ観光資源とする重要性を指摘。来年に150年の節目を迎える「ええじゃないか」の仕掛けに期待し、そのための効果的な情報発信や人材育成の必要性を説いた。

多角度からの研鑽(けんさん)の跡をうかがわせた中身の濃い質問だった。

産業部長は「観光振興は雇用機会の創出や地域経済活性化に大きな効果を生み出しており取り組み意義は大きい」と

### ■地域医療構想

鈴木みさ子氏(共産)は、県が示す「地域医療構想案」について市の考え方を

聞いた。健康部長は「地域医療構想における必要病床数は今後の方向性を示しているが、地域医療計画で定める基準病床数との関係などが明確にされていない」とし、課題として指摘されている回復期機能の病床が不足していることや在宅医療への移行などの検討が必要であると答えた。

鈴木氏はその核となる市民病院の対応やかかりつけ医との連携の重要性を訴えた。

団塊の世代が75歳以上となる2025年まで残された時間は少ない。対応が急がれる。